



JSQC ニュース

No.358

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 正会員（一般・シニア・永世シニア）とJSQCフェローの創設
- 2-私の提言 茶の湯と、診療プロセス標準化、質安全保障の関係について
- 2-ルポルタージュ 第395回事業所見学会ルポ
- 3-5・6月の入会者紹介／論文募集／新規研究会メンバー募集／標準委員会からのお知らせ
- 4-行事案内／教員公募

正会員（一般・シニア・永世シニア）とJSQCフェローの創設

庶務委員長 山田 秀

知識を獲得されている方が永続的にその知識を活用できる場をつくる、先達が獲得された知識を、組織、社会として活用できるようにすることは、さまざまな分野における課題の一つであり、品質管理においても同様です。JSQCではこのような状況に鑑み、新会員区分の創設と、JSQCフェローの認定について検討してきました。

そして2017年5月27日に行われた臨時総会にて、定款第3章 会員第6条2項として、正会員に正会員（一般）、正会員（シニア）、正会員（永世シニア）の区分を設けることを定めるとともに、会員規程を改定しました。また2017年7月10日理事会では資格審査内規、正会員・準会員資格審査基準を改定しました。その内容は次の通りです。

正会員（一般）：従来の正会員であり、年会費、権利などは変更なし

正会員（シニア）：

- ・年会費2000円
 - ・JSQC会員として20年以上活動するとともに年齢70歳以上
 - ・有資格者の申請に基づき承認（年度単位で更新）
 - ・電子媒体で発行する学会誌、ニュースなどが入手可能
 - ・行事参加の権利、選挙権、被選挙権は正会員（一般）と同じ
- 正会員（永世シニア）**

- ・年会費無料
- ・JSQC会員として30年以上活動するとともに年齢80歳以上の者
- ・有資格者の申請に基づき承認（年度単位で更新）
- ・電子媒体で発行する学会誌、ニュースなどが入手可能
- ・行事参加の権利、選挙権、被選挙権は正会員（一般）と同じ

このような区分を活用されることにより、品質管理について見識をお持ちのJSQC会員の方々に長くJSQC活動にかかわっていただけること、また、品質管理に関する知識の伝承がより一層活発になることを期待しています。

正会員（シニア、永世シニア）

正会員（シニア、永世シニア）については、行事参加の権利、選挙権、被選挙権は変わらず、JSQCからの情報提供を電子媒体に限定させていただくことで、正会員（シニア）は会費を下げ、正会員（永世シニア）では会費無料としました。紙媒体での情報提供をご希望の方は、従来の正会員に対応する正会員（一般）をご選択ください。

また正会員（シニア、永世シニア）は年度単位での区分であり、年度開始前の8月末までに申請書を提出いただきます。また、正会員（一般）への再変更も可能です。これらの区分は第47年度から導入を予定しており、

区分の変更を希望される方は、2017年8月28日(月)までに事務局に電子メールでご連絡ください。申請書をお送りいたします。本年度の提出期限は9月5日(火)です。

フェロー

品質管理に関する見識に優れ、経験もあるJSQC会員をJSQCフェローとして認定することで、その会員がより一層社会で活躍しやすくするために、フェローの創設について検討してきました。そして2017年5月27日に行われた臨時総会では、JSQCフェローの認定を定款に追加しました。その内容は次の通りです。

品質管理の見識に優れ、責任ある立場で指導的役割を果たし、学会の重要な活動に従事するなど社会に貢献してきた正会員（一般）に対し、その能力と業績を評価してJSQCフェローとして認定する。

認定の基準、進め方は現在検討中であり、48年度からの導入を目標に手続きを整備しています。詳細については、逐次お伝えいたします。

正会員（シニア・永世シニア）

申請書申込先：apply@jsqc.org

申込期限：2017年8月28日(月)

第47年度申請書提出期限：

2017年9月5日(火)

● 私 の 提 言 ●

茶の湯と、診療プロセス標準化、質安全保障の関係について

日立製作所ひたちなか総合病院 副院長
東京医科歯科大学、筑波大学 臨床教授 山内 孝義



私の母は表千家の茶道を長年教えています。その影響で、私も自宅を建てた折に、井戸を掘り、簡素な茶室を作って、時々茶の湯を楽しんでいます。

御存知のように、茶道では、お茶を点てるプロセスが細かく決まっています。動作だけでなく、茶道具を置く位置も細かく規定されています。特に表千家は、利休の伝統をそのままの形で受け継ぐ色彩が濃く、400年以上前のプロセスをそのまま踏襲しています。若い頃は、何故このように、不自由に、堅苦しくブ

ロセスを決めるのかが理解できず、近年の茶の湯の衰退は、元々自由で革新的芸術であった茶の湯を、そのまま日本の伝統にした事で生じた、古さと、画一性が際立つようになったのではないかと考えていました。しかし、年齢を重ねて、仕事も長くなってくると、プロセスを吟味し、標準化することの大切さも分かってきました。すなわち、お茶を点てる時の一つ一つのプロセスは、「用の美」という視点—実用的であって、かつ見た目が美しい—から考案され、他の方法が検討、試行されたとしても、「用の美」の観点から磨かれて、徐々に1つのプロセスに収斂、標準化されていったということです。勿論、流派や状況によって多少のプロセスの差異はありますが、「用の美」という視

点は同じです。

医療技術に関しても、施行者によって千差万別ではなく、安全かつ実用的なプロセスに標準化されていると思います(そうはいつても、多少の「流派」はあり、患者さんの体型や、状況によっての変化はあります)。若いうちには他の方法も試したりしますが、色々な試行錯誤の結果、上手な人は大体同じ方法に収斂してくるようには思います。

茶の湯は革新的な進歩はなく、400年掛けてプロセスが洗練され完成しており、一方で医学は進歩するので、イノベーションが生じれば、新たな理論や技術に対応するプロセスを考案する必要があるという点で違いはありますが、新しいプロセスもすぐに吟味され、安全性と実用性の観点から標準化されていくのは同じです。すなわち、茶道も医療も共通した考え方が基盤にある訳です。

私は、「用の美」と標準化、質安全保障の視点を持って診療プロセス改善に生かしたいと思っていますが、皆さんも自分の趣味のキーコンセプトを念頭に、プロセスの最適化を考えてみてはいかがでしょうか？

第395回 事業所見学会 ルポ

(株)神戸酒心館

第395回事業所見学会が、2017年5月12日(金)に(株)神戸酒心館に於いて参加者27名で行われた。

神戸酒心館は、ノーベル賞の晩餐会で振る舞われたことで一躍世界的に有名になった銘酒「福寿」の蔵元として、「灘五郷」で伝統を守りながら大手企業に負けない清酒造りに取り組んでおられる。近年は管理プロセスのデータ化を重点課題として、更なる高品質な酒造りに取り組んでおり、伝統を継承しつつ近代化を目指すものづくりについて学ぶ良い機会となった。

スライドによる説明と工場見学の後、20分ほど質疑応答が行われた。説明は湊本支配人が担当され、ワインの話から始まり、お酒の発祥や製造法、ワインとの違い、麴や旨みの話など、きめ細かく大変わかりやすい説明とその話術に引き込まれた。質疑応答も非常に活発で時間の制約が恨めしく感じられた。

同社の大きな特徴は、杜氏に頼らない製造方法への方針転換である。大手企業とは異なり、杜氏の確保も難しく12年ほど前に9名の社員だけで製造することにしたとのこと。品質管理という言葉やQC手法を使っておられるわけではないが、杜氏の暗黙知を形式知化し標準化していく作業を地道に続けるというQCの王道ともいえる活動が行われている。また、麴を育てる容器を木箱から、プラスチックに変更することで外界と遮断し管理を容易にしたことにも、QC的な考え方が活用されていると感じた。

その他にも、元国税局の上田先生を技術顧問に迎えて勉強会を開催し続けるという努力や新滅菌設備の導入、生産規模の維持と北欧への市場開拓、今後の料理の趣向に合わせた評価の開発、酒蔵に併設のコンサートホールや食事処の開設等々、キリがないほど様々な工夫がなされていた。中小企業が生き延びる為に明確なビジョンを持って取り組んでおられる姿勢に、ビジネスの視点からも非常に興味深く参考となる一日であった。

長谷川 伸洋 (株)カネカ

2017年5月の 入会者紹介

2017年5月19日の理事会において、下記の通り正会員6名、準会員2名、賛助会員2社3口の入会が承認されました。

.....
(正会員6名) ○長尾 能雅 (名古屋大学医学部附属病院) ○植村 政和 (名古屋大学) ○国藤 隆 (東日本旅客鉄道) ○安田 あゆ子 (藤田保健衛生大学病院) ○帖地 卓也 (トヨタ自動車九州) ○岡野 みのる (アリミノ)

.....
(準会員2名) ○藤井 将太郎・堀江 広一 (東京都市大学)

.....
(賛助会員2社3口)

○GSユアサ○旭化成

2017年6月の 入会者紹介

2017年6月14日の理事会審議において、下記の通り正会員17名の入会が承認されました。

.....
(正会員17名) ○宮林 皇史 (利定会大久野病院) ○加藤 利幸 (マツダ) ○松本 克己 (栄工業所) ○小泉 弘人 (みやま) ○長崎 光章 (三井ハイテック) ○中谷 光徳 ○影山 正幸 (名古屋市立大学) ○J. JEGAN. (INDUS TOWERS LTD) ○青山 美奈 (ブリヂストン) ○鈴木 孝秀 (クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン) ○平川 聡 (メルコパワーデバイス)

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

○黒田 正弘 (アピックヤマダ) ○呉天旭 (資生堂) ○中原 久 (ビカ・ジャパン) ○駒坂 昇一 (旭化成ホームズ) ○佐藤 益矛 (CKD) ○山口 和代 (ルネサス セミコンダクタマニユファクチュアリング)

.....
正 会 員：1934名

準 会 員：57名

職域会員：44名

賛助会員：145社191口

公共会員：17口

新規研究会メンバー募集

製造業のためのビッグデータの解析あり方研究会

近年、製造業の品質管理分野でもビッグデータを活用できる環境が整いつつあります。しかし、ビッグデータを、どのような場面で、どのような目的で、どのような解析方法で、有効に活用できるのかという点は、まだ試行錯誤の段階であるように思えます。

このような状況を踏まえ、本研究会では、実務上の課題や事例・実データに基づいて、実務者と方法論の専門家とで議論を行い、ビッグデータを問題解決・課題達成で有効に活用するための指針を示すことを目指します。特に、今まさにビッグデータに直面し、試行錯誤をされている方のご参加をお待ちしております。

主 査：小野田 崇 (青山学院大学 理工学部 教授)

開催日：10月～11月に第1回開催予定

場 所：日科技連 東高円寺ビル

申込方法：本部事務局宛に会員番号・氏名・所属・連絡先を明記の上、FAX (03-5378-1507) またはE-Mail (office@jsqc.org) にてお申し込みください。

定 員：20名

標準委員会からのお知らせ

「JSQC規格」好評頒布中

- Std 00-001 品質管理用語
A4、49ページ 資料代 (税別)：会員1,905円、定価2,381円
- Std 32-001 日常管理の指針
A4、40ページ 資料代 (税別)：会員1,524円、定価1,905円
- Std 32-001(E) 日常管理の指針 (英訳版)
A4、48ページ、PDF 資料代 (税込)：会員 \$ 20、定価 \$ 25
- Std 31-001 小集団改善活動の指針
A4、45ページ 資料代 (税別)：会員1,630円、定価2,037円
- Std 21-001 プロセス保証の指針
A4、45ページ 資料代 (税別)：会員1,630円、定価2,037円
- Std 89-001 公的統計調査のプロセス—指針と要求事項
A4、27ページ 資料代 (税別)：会員960円、定価1,200円
- Std 33-001 方針管理の指針
A4、47ページ 資料代 (税別)：会員1,704円、定価2,130円

※研修のテキストとして使用する場合は値引き率は、定価から、20部：30%、50部：40%、100部：50%です。

申込方法：ホームページより専用注文書をダウンロードし、FAXにてお申し込みください。E-mailでも受付しています。

http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kikaku_list.html

申 込 先：本部事務局 FAX 03-5378-1507 E-mail apply@jsqc.org

行 事 案 内

●第397回事業所見学会（本部）

テーマ：働き方変革

日 時：2017年8月22日(火)13：30～16：45

見学先：コニカミノルタ 丸の内オフィス

定 員：30名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

参加費：会 員3,000円 非会員4,500円

準会員2,000円一般学生2,500円

※当日払い

申込先：本部事務局

詳 細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290822>

●第113回QCサロン（関西）

テーマ：ダイキン工業中国現地法人における人機軸の品質人材育成の取り組み

ゲスト：泉 茂伸氏

（大金空調上海有限公司）

日 時：2017年8月24日(木)19：00～20：30

会 場：中央電気倶楽部5階513号室

参加費：1,000円（含軽食・当日払い）

申込先：関西支部事務局

詳 細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290824>

●第104回クオリティトーク（本部）

テーマ：多目的設計探査

ゲスト：大林 茂氏（東北大学）

日 時：2017年8月25日(金)18：30～20：50

会 場：日科技連東高円寺ビル5階研修室

定 員：30名

申込先：本部事務局

詳 細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290825>

●第114回研究発表会（中部）

日 時：2017年8月30日(水)

研究発表会 13：00～17：45

懇親会 18：00～20：00

会 場：名古屋工業大学

参加費：会 員4,320円（締切後4,860円）

非会員6,480円（締切後7,020円）

準会員2,160円・一般学生3,240円

※当日払いは別金額

[懇親会]

会 員・非会員3,500円

準会員・一般学生2,500円

申込締切：2017年8月23日(水)

申込先：中部支部事務局

詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290830_2

●第115回研究発表会（関西）

日 時：2017年9月15日(金)10：00～17：00

会 場：大阪大学中之島センター

プログラム：

特別講演「滋賀大学で始まったデータサイエンティストの組織的育成」

竹村彰通氏（滋賀大学）

申込先：関西支部事務局

詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290915_2

●JSQC規格「日常管理の指針」講習会（本部）

テーマ：日常管理の本質を学ぶ

日 時：2017年10月24日(火)13：00～17：00

会 場：日本科学技術連盟東高円寺ビル地下2階研修室

定 員：50名

プログラム：

1. JSQC規格「日常管理の指針」制定のねらい
2. 日常管理の基本
3. 日常管理の進め方（標準化）
4. 方針管理の進め方（異常の検出と処置）
5. 上位管理者の役割、部門別の日常管理
6. 日常管理の推進
7. 全体討論

参加費：会 員4,320円（締切後4,860円）

非会員6,480円（締切後7,020円）

準会員2,700円一般学生3,780円

※当日払いは別金額

申込締切：2017年10月17日(火)

詳細・申込：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h291024>

●第47回年次大会・統計数理研究所（本部）発表募集中！

日 時：2017年11月25日(土)

(1)申込期限

発表申込締切：9月25日(月)

予稿原稿締切：10月25日(水)必着

参加申込締切：11月15日(水)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

7月送付の発表申込要領をご覧ください。

(3)参加申込

本部事務局までお申し込みください。

詳 細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h291125>

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

中部支部：FAX 052-203-4806

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：FAX 06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org

教員公募

文教大学 情報学部 教員公募

所 属 情報学部 情報社会学科

担当科目 (1)システム分析

(2)システム開発

(3)マーケティング・リサーチ

(4)調査・統計

募集人員 担当科目ごとに人員1名 教授、准教授または専任講師

勤務形態 常勤（任期なし）

採用予定 平成30年4月1日

応募締切 平成29年 9月21日(木)郵送必着

詳 細 <http://www.bunkyo.ac.jp/gakuen/saiyo.htm>

千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 教員公募

募集人員 教授、准教授または助教 1名

所 属 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科

専門分野 プロジェクトマネジメント（ソフトウェア開発マネジメント等）

担当科目 「ソフトウェア開発管理」、「品質マネジメント」、「ソフトウェア開発プロジェクト特論」等のソフトウェア開発マネジメント分野に関連した科目の教育ならびに大学院の講義担当を予定しています。なお、大学院の講義においては、英語で講義できることが望ましい。

着任時期 2018年4月1日

応募締切 2017年9月30日(土)（当日消印有効）

詳 細 http://www.it-chiba.ac.jp/media/pm_H290706.pdf